

はじめに

(出版意図にかえて)

特定非営利活動法人 JAFSA (国際教育交流協議会) の前身である JAFSA (外国人留学生問題研究会) は、1968 年 6 月に全国の国公立大学及び私立大学と当時の文部省の留学生担当者によって「外国人留学生が留学目的を達成できるよう外国人留学生の受入れ、教育および厚生補導の諸問題を検討して、これらの改善に寄与すること」を目的に発足された。

(中略)

このような急激な留学生受入れ数の増加は、受入れの現場である教育機関に多くの混乱と課題を投げかけることになった。

そのため、JAFSA は、「実務的な外国人留学生問題の研究会」として、会員のために研究集会やノウハウの提供を行うと同時に、現場の留学生担当者の手引きとして「留学生担当者の手引き」を「外国人留学生受入れ編」と「日本人留学生送出し編」の双方向の視点から刊行する事業を行った。

今回の「留学生受入れの手引き」は、「10 万人計画」が 2003 年に数値目標を達成した後の文部科学省の施策、国立大学の独立行政法人化、教育界へ導入された市場理、厳しい大学間競争といった大学を取り巻く環境を視野に入れ、各大学の「留学生の担当者」の日々の実務に役立つことはもとより、所属する大学における政策提言にも役立つものを目指して作成されている。

この「留学生受入れの手引き」では、教育機関等で日々の業務の中で「外国人留学生」に接する機会のある教職員を広く「留学生担当者」と位置づけている。

なぜなら、「留学生担当者」という特別の名称を持つ役職や係は、日本の大学等においては一般的には存在しないからである。また、対象としている「外国人留学生」は、グローバル化の進展によって多種多様な「留学生」が増えているが、「留学」の在留資格をもって日本で学ぶ「外国人留学生」に限定していることをあらかじめ述べておきたい。

(後略)

#### 一 JAFSA 「留学生受入れの手引き」

「はじめに」より抜粋